

クロルヘキシジングルコン酸液 のアレルギー



クロルヘキシジンは皮膚に残留し、持続的な抗菌作用を示す消毒剤です。この特性により、手術時手洗いや手術部位、血管内留置カテーテル挿入部位の皮膚などで優れた効果を発揮します。日本では結膜嚢以外の粘膜への使用は禁忌とされています。

クロルヘキシジングルコン酸塩（CHG）によるアナフィラキシー反応（アレルギー反応）は全世界で報告されています。通常の使用方法ではまれにしか発生しないために、正確なアナフィラキシー反応や副作用の発生頻度は明らかになっていません。発症しても医療従事者による適切な処置により、死亡例は見出されておらず、発症後当日～数日で軽快しているようです。また**日本での報告は世界からの報告の半分となっており**、女性よりも男性の方が報告数が多いとされています。

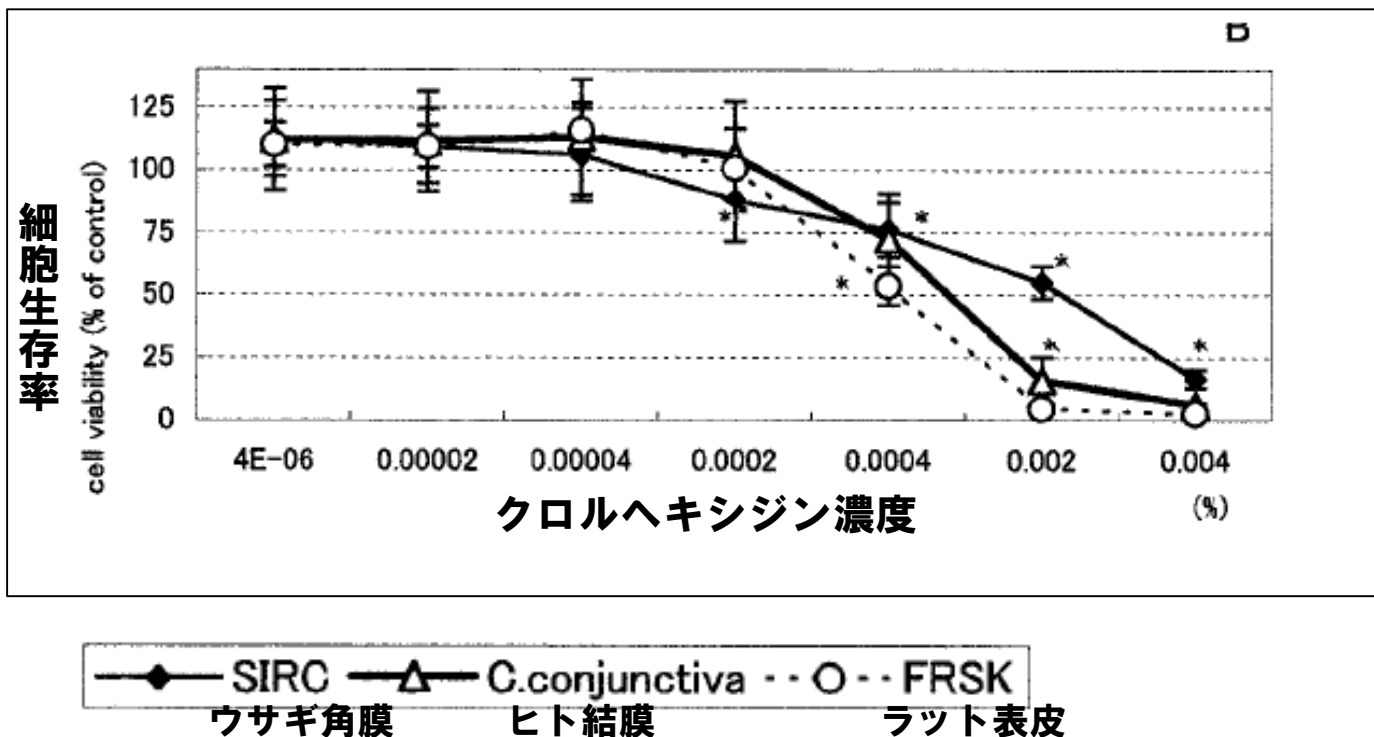
症状

- 血圧低下が69%（そのうちの約14%では測定不能にまで至った）。
- 皮膚症状としては発赤・紅斑、蕁麻疹、浮腫など、他には喘鳴、気管支痙攣などの呼吸器障害、さらに重症例では心室細動、意識不明、心停止が見られた。
- 局所皮膚塗布により、悪心・嘔吐・蕁麻疹とともに、四肢冷感、意識混濁などのショック症状も報告されている。

発生した状況

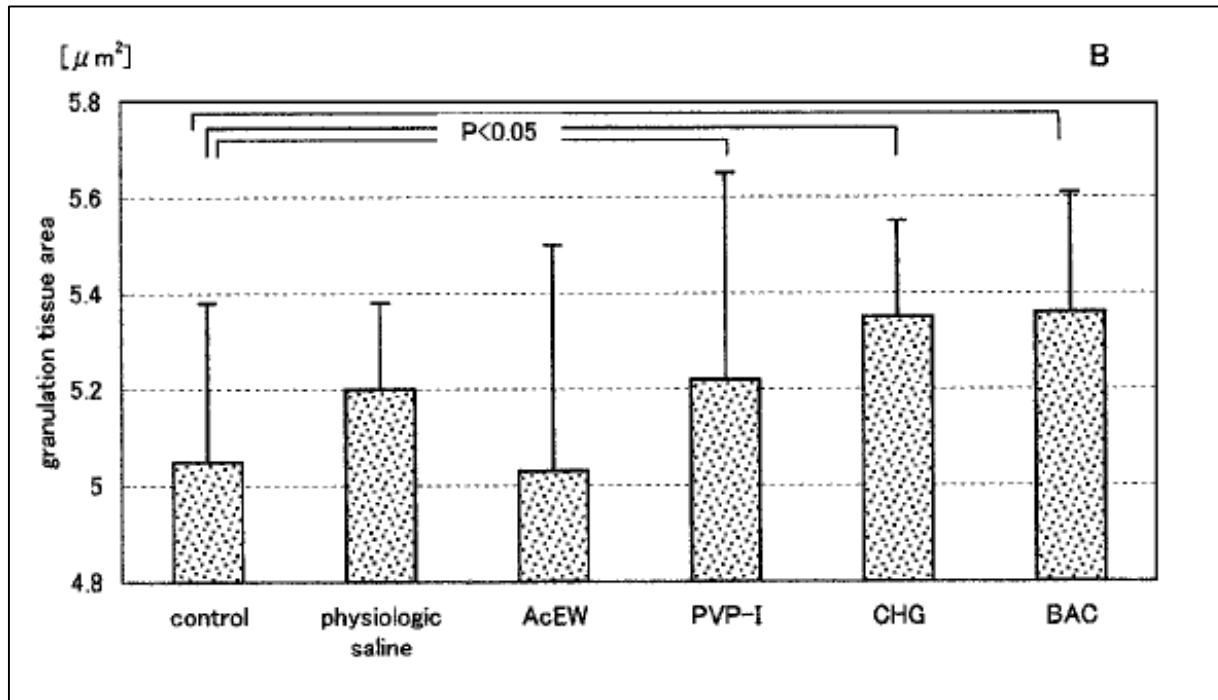
- 手術時にドレープ等で覆われていたために、患者の皮膚症状の発見が遅れたため。
- 医薬品の添付文書に記載されている使用方法よりも、**高濃度で使用をしたため**。
- 粘膜への使用、眼への使用など不適切な使用方法をしたため。

クロルヘキシジングルコン酸液 の細胞毒性



低濃度でも細胞毒性を示し、濃度が高くなるほど毒性が高くなる。

炎症を起こした部位面積

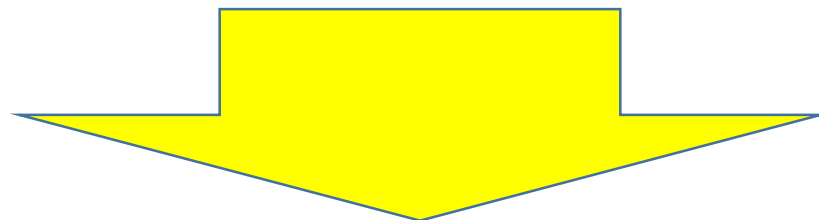


他の生体消毒薬に比べて炎症を起こしやすい

参考文献：岩沢 篤郎，生体消毒薬の細胞毒性，感染症学雑誌

クロルヘキシジングルコン酸塩液は…

- ◎皮膚消毒の適用濃度は、0.1～0.5w/v%。
- ◎0.1～0.5w/v%では消毒効果は変わらない。
- ◎高濃度になるほど細胞毒性を示す。



適用濃度範囲内で低濃度が望ましい。